

6 「環境モデル都市」の推進について

(内閣府)

京都市では、平成9年12月に京都市で開催された気候変動枠組条約第3回締約国会議（COP3）以降、京都議定書誕生の地として、地球温暖化対策に特化した全国初の条例の制定や中小企業にも取り組みやすい独自の環境マネジメントシステム（KES・環境マネジメントシステム・スタンダード）の創設など、積極的に地球温暖化対策を進めて参りました。

また、平成19年2月に開催した「気候変動に関する世界市長・首長協議会京都会議」では、あらゆる国に対して温室効果ガス排出量を2020年までに1990年レベルから30%、2050年までに80%削減する目標を設定するよう強く呼びかける「京都気候変動防止宣言」を全世界に向けて発信しました。

こうした中、国においては、温室効果ガスの大幅な削減など低炭素社会の実現に向け、高い目標を掲げて先駆的な取組にチャレンジする都市を選び、「環境モデル都市」の創出に自治体と連携して取り組むこととされましたが、京都市は、その趣旨に賛同し、応募致したところです。

選考の結果、京都市は「環境モデル候補都市」に選定されましたが、今後「環境モデル都市」に選定されるよう、「行動計画」の策定を進めるとともに、「環境モデル都市」提案に掲げた施策、事業を積極的に推進し、低炭素社会の実現に向けて全力で取り組んで参りますので、格段の御配慮をいただきますよう要望します。

要望事項

「環境モデル都市」提案に掲げた事業の推進への支援

主な要望先：内閣府（内閣官房地域活性化統合事務局）

京都市の担当課：総合企画局 地球温暖化対策室 企画調査担当課長 高畑重勝 TEL 075-211-9253

■歩いて楽しいまち・京都戦略

くくが主役の道づくり・まちづくり」

○日本初の「歩行者優先章章」を定める。
○高度集積地帯と既存チャミナルを結ぶ「エ
ンテナリジエント高機能低システム(BHT)
導入。地区の活力あるまちづくりにつなげ
○四角のトラントモトモル化を中心とし
○歩行者優先の道づくりにつなげる。
○通常のパーク&ライド、トラントモル、
にはMM(モビリティ・マネジメント)施策

ライフスタイル

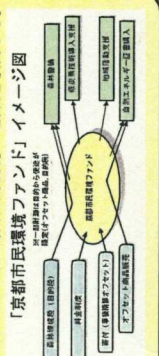
- (1) 地域における市民・事業者行動の実践
 (2) 環境教育・環境活動支援の成果を世界に
 「DO YOU KYOTO?」地域市民行動」
 (シブヨウプロジェクト)
- ・市民・事業者行動 (以下、市の取組)
 - ・環境計算機 (5 万生活者への普及と拡大)
 - ・「こどもエコライフチャレンジ事業」
 - ・省エネ相談、NES の普及
 - ・毎月 16 日の「DO YOU KYOTO?」デー
 - ・コンビニ深沢営業所ライフスタスの見直し
 - ・「京エコロジセンター」の環境教育・活動支
- 援ノウハウの提供による中国等世界への貢献
- 京都の大学・大生による国内外に向けた環
- 境活動の展開支援

歩いて楽しいまち

- 1) 歩くまちが京都の推進
「歩いて楽しむまち、京都戦略」
・歩行者優先意識の制定
・エコエシエンティシブな高性能バスシステムIBT
・市内中心部での歩行者優先のまちづくり
・「総合交通戦略」の策定と展開
- 2) 鉄道・バス・自転車の利用促進
・バス優先・専用レーンの設定・実効性確保
・公共交通機関の利便性向上と新たなネットワーク化
・自転車利用環境の整備
- 3) エコカーの普及
・公用車への車先導入、エコカーへの転換促進
・電気バスの開発と運行の検討

5つの取組方針を支える基金等

温室効果ガス排出を低格化し、排出削減を推進するため、カーボンオフセットを行う基金「京都市民環境ファンド」を創設する。



行政機関内の連携体制

- 市長を本部長とする「地球温暖化対策推進本部」を
本部の下に「中長期ビジョン検討部会」を設置
市長直属の「地球環境政策監」、「交通政策監」
による局権限的な組織推進

取組体制

“DO YOU KYOTO?”を合言葉とした
「オール京都」での連携及び取組の推進
(地域連携体制)

「脱温暖化行動キャンペーン」の8団体を核に、自治会、地域団体、事業所、NPOなどあらゆる主体が参画する「オール京

「京のアジエンダ21フォーラム」による
先進的な取組の創出と実践

大学、企業等地域資源の活用
京都の大学、先端産業等の事業者との産学公連携

国際的な連携
ICLEI や WMCC を通じて世界との連携
「京エコロジセセンター」の環境教育・活動支援
ノウハウ提供による国際貢献

■景観と低炭素が創る品格ある京のまちづくり

＜低炭素ストックづくり＞

○新米穀産地に適合する良好な景観と、良好な省エネ住環境に関する建築物の京都基調を規定する。認定、優遇措置を核とする。

○京町家の知恵と最先端の技術の融合により低炭素化を実現し、かつ京都の景観にマッチした「米穀・低炭素ハイブリット型住宅」の建築を事業者との連携により事業化。

（「平成の京町家」の建築を幸

■“DO YOU KYOTO?”地球市民總行動

＜ライプスライムの変革に向けた市民戦行動＞国際貢献

「Do you KNOT?」を合言葉とした市民、事業者の自発的行動を飛躍的に広めた。

＜京都議定書発効の2月16日を記念し、「Do you KNOT?デー」として毎月16日に「オール京都」での統一行動を行う。

＜コンベンション施設営業等ライフスタイルスファアを推進する。中国をはじめとするアジアの国々々に提供する。

＜環境教育・活動支援のノウハウを、中国をはじめとする国内外に向けた環境活動の展開を支援する。

＜京都の大学・大學生のよりくわくを、中国をはじめとする国内外に向けた環境活動の展開を支援する。

緑・住まい・まちづくり

- (1)景観とマッチした省エネ建築物
「景観と低炭素が創る品あまらちづくり」
(シシボルトプロジェクト)
・建築物の基準の策定と認定、促進制度検討
・東東・低炭素まちづくり型住宅1戸完成の
京町家のモデル建築
- (2)豊かな森林資源の活用
・市内の森林整備の促進
・市内産材の活用促進
- (3)水や緑、風の道を活かすまちづくり
・良好な水環境に合わせた取組の推進、駐車場
の乏生化、街路樹に合わせた「道路の森」づく
り等都市緑化、道路緑化、森林保全・整備等
の推進
- (4)モデル地区での低炭素型まちづくり
・高度経済成長期、高度成長期における公共交
通、省エネ住宅、積込施設、新城エネ基盤先導
区

のみの

- (1) 「環境」をテーマとした産学連携
 による先端産業、伝統産業の振興
 ・産学連携による「Kyoto-Cari」の製品開発
 ・京都大学データナリタスターの構築
 ・長持で環境にやさしい伝統製品・商品普及
- (2) 企業の環境負荷削減活動等の推進
 ・「MES」の認証取得拡大
 ・地域に密着した企業の省資源型活動推進
 ・地域での温室効果ガス排出量取引の導入
 ・旬の農作物・市内産木材の地産地消
 ・旬の産物・農産物の市内産物の利用促進

カーボン・ゼロ都市実現に向けたエネルギー

- (1) バイオマスエネルギーの利用促進
・ 生ごみの分別収集によるエネルギー生成モデル実験(2000 世帯によるモデル事業を開始)
・ 生ごみ、間伐材等のエネルギー活用に関する研究開発と普及
・ BDF 技術の指導による国際連携
(2) 自然エネルギーの利用促進
・ 助成制度等による太陽エネルギー利用促進
・ グリッド電力証書購入の推進

